
平成30年度

地域政策推進事業 取組報告書



北 海 道

北海道へお寄せいただいた寄附金は、道の各振興局が実施する「地域政策推進事業」の経費に充当しております。

地域政策推進事業は、地域の特性を活かした個性的な地域づくりや地域固有の課題への迅速かつ的確な対応など、地域に根ざした政策を進めるため、市町村などと連携しながら、企画・立案から事業実施まで一貫して各振興局が取り組む事業です。


平成30年度に各地域で行った事業をご紹介します。

■ 地域政策推進事業 H30 事業費計 268,007千円




例えば

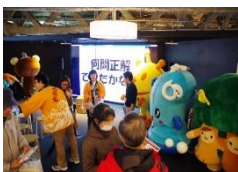
石狩振興局では、札幌圏の人口減少問題に対処するため、首都圏大学生の地元就職を促す事業等を実施しました。




胆振総合振興局では、2020年4月に白老町に整備される民族共生象徴空間「ウポポイ」の開設に向けた機運醸成の取組を行いました。



檜山振興局では、北海道新幹線開業を生かした観光客の流入促進を図るため、首都圏・東北圏での観光・物産プロモーションを実施しました。



釧路総合振興局では、北海道命名150年のキーポイントである松浦武四郎と釧路との関わりを発信するなど北海道150年の機運醸成の取組を行いました。



空知総合振興局

■「空知地域人材確保・定着推進事業」(地域経済に関連する取組)



空知の経済力を維持し活性化を図るため、新規学卒者の地元就職及び定着率の向上や、U・Iターン等による労働力の流入促進に取り組んでいます。

地元就職を応援するための合同企業説明会を開催するとともに、インターンシップ受入企業に対するセミナーを開催しました。また、「北海道U・Iターンフェア」に参加し、首都圏在住のU・Iターン希望者へのPR活動を実施しました。

■「空知型観光まちづくり推進事業」(地域経済に関連する取組)



国内外からの観光客を呼び込むことのできる魅力的な観光地づくり及び観光情報の発信に取り組んでいます。

サイクルツーリズムを推進するためのセミナーを開催したほか、道外及び海外のイベントでのプロモーション活動や現地メディアや旅行会社等への訪問を通じ、空知地域の魅力発信に取り組みました。また、ブログによる旅行情報の収集が盛んな台湾の著名なブロガーを招聘し、ブログを通じた観光情報の発信を行いました。

■「空知地域食品ブランド化・ワイン産地づくり強化事業」(地域経済に関連する取組)



空知地域の食のブランド化や空知産ワインの産地基盤づくりを推進するため、道内外への知名度向上に取り組むほか、空知産品の高付加価値化を目指し、地域資源を活用した商品の開発などを支援しています。

「空知産ワイン」を産地ブランドとして形成するため、研究機関等と連携して産地特性を把握する調査を行うとともに、生産者向けセミナーを開催しました。また、農商工連携による地域産品の高付加価値化を図るため、管内の一次事業者と道内の加工事業者との商談会を開催しました。

■「空知農業振興事業」(地域経済に関連する取組)



空知の基幹産業である「農業」の新しい姿を目指すため、新技術導入や食育など地域活動への支援、将来の農業を支える人材の育成等に取り組んでいます。

ドローンを活用した生産性向上の実証事業や次世代の食育リーダーとなり得る高校生が行う食育活動への支援、管内の新規就農の促進と就農者の経営早期安定を目的とした「空知農業ゼミナール」などを実施しました。

空知総合振興局

■「集落コミュニティ再生事業」（安全・安心や地域づくりに関連する取組）



農村集落の維持・活性化に向け、住民の集落への誇りを育み、集落づくりを主体的に行おうとする意欲を醸成し、集落のコミュニティの強化や活性化などにつながる取組を行っています。

栄養成分が高い食用ほおずきの栽培・加工などを通じて、集落の話題づくりなどに取り組んでいますが、平成30年4月に集落の自主活動組織である「徳富ほおずきの会」が設立され、この会が主催して新十津川農業高校との食用ほおずきの試食・交流会が開催されるなど、様々な取組が行われています。

■「空知産業遺産活用促進事業」（地域経済に関連する取組）



平成20年度に策定した「元氣そらち！産炭地域活性化戦略」に基づき、炭鉱遺産群を活用した観光やまちづくりの取組を推進しています。

「そらち『炭鉱（やま）の記憶』で地域づくり推進会議」を開催し、貴重な炭鉱遺産を活用するための方策の検討・情報交換を行ったほか、空知の石炭、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾とそれらをつなぐ鉄道が北海道の近代化に大きく貢献してきた「炭鉄港」のストーリーをわかりやすく伝えるPR動画の作成等を実施しました。

■「産業遺産シビックプライド醸成事業」（地域経済に関連する取組）



空知地域の炭鉱遺産群をはじめとした産業遺産の魅力ある地域資源を活用し、シビックプライド（地域に住む人々の誇りや自信など）を醸成し、炭鉱地域の活性化を推進しています。

空知管内のほか、室蘭市、小樽市を周遊するバスツアーを開催するなど、産炭地域外における認知度向上も図りました。11月には札幌市内でセミナーを開催し、産業遺産の情報発信を行い、交流人口の増加を図りました。

■「そらち障がい者スポーツ推進事業」（その他）



障がいの有無に関わらず誰もが楽しむことができる「アダプテッドスポーツ」等を推進するために、北海道教育大学岩見沢校と連携して、「アダスポ岩見沢」を開催しました。

アダプテッドスポーツ10種類のブースを設置、各ブースに講師を配置して競技方法やルールを指導し、来場者に各競技を体験していただきました。また、空知総合振興局独自ブースでは、管内のスポーツ施設情報をPRするとともに、エゾシカの角を使ったストラップづくり体験などの出前講座も実施しました。

空知総合振興局

■「北海道空知魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



「空知」の活性化と知名度向上を目的に、平成 28 年に設立した管内 24 市町と空知総合振興局が連携する「北海道空知地域創生協議会」の活動として、「総合的なプロモーション等の実施」、「交流人口の拡大に向けた取組」、「移住・定住促進の取組」の三本を柱とし、首都圏等での知名度向上を図っています。

東京で開催された「北海道フェア」への出展、「そらち応援大使」の任命、スタンプラリーの実施、移住・交流フェアへの参加等の取組を行いました。

石狩振興局

■ 「いしかり元気な農村ビルドアップ事業」(地域経済に関連する取組)



大規模農家の経営安定化を通じた農業者の定住や農業後継者の確保、大都市札幌を抱える立地条件を活かした都市農村交流に取り組んでいます。

大規模化に対応した省力化技術のひとつで、石狩に適した技術として「ドローン」に着目し、その精度や効果を図る各種調査、関心の高い農業者等との意見交換を行ったほか、都市農村交流で重要な役割を果たす女性農業者向け研修（ニーズ等に応じ、テーマ別に全8回）を行いました。

■ 「「ようこそいしかり」誘客促進事業」(地域経済に関連する取組)



管内観光資源の掘り起こしなど、誘客に向けた企画・検討に当たって、市町村や外国人有識者等で構成する「誘客促進検討会」を設置し、国内外からの誘客促進に取り組んでいます。

SNSを活用した管内観光情報の発信や台湾現地プロモーション、新千歳空港における海外修学旅行生歓迎イベント等を実施しました。

引き続き急増する外国人観光客をはじめ、国内外からの一層の誘客促進に向け、管内の魅力発信に取り組みます。

■ 「シェフを活用した石狩ブランドづくり事業」(地域経済に関連する取組)



地域のこだわりの生産物（食材・加工品）を石狩ブランドにつなげるため、平成28年度からシェフ等と生産者（農林水産業関係者）との交流促進に取り組んでいます。

シェフが石狩産生産物への理解を深め、その魅力をPRしてもらうとともに、シェフから生産者へのアドバイスが生産物の向上につながることから、交流会・ワークショップや石狩産食材を使用した料理を提供するレストランフェアを開催しました。

今後も魅力ある石狩産生産物のPRに取り組めます。

■ 「いしかり農業福祉パートナー活用事業」(地域経済に関連する取組)



障がい者就労支援施設への農作業の一部委託などにより、農業の労働力不足の解消と障がい者就労支援を図る取組み（農福連携）づくりを進めています。

農業・福祉相互の理解醸成のための「農福連携実践農家での事例調査（5月・8月の2回）」や「農福連携実践農場体験（10月の1回）」「事例集作成のための検討会開催（3月の1回）」を行いました。

石狩振興局

■「カムバック&ウェルカム・イシカリ事業」(地域経済に関連する取組)



石狩管内では、毎年多くの若者が進学就職などで首都圏に流出していることから、若者の地元定着を促進するため、平成29年度から石狩管内の大学生が地域(市町村や地域おこし協力隊員等)と連携し、地域の活性化活動に関わる取組を進め、石狩地域に対する愛着を醸成する取組を進めています。

札幌国際大学の学生と冬の交流人口拡大を目的としたイベントの企画・運営や、首都圏において管内8市町村や札幌広域圏組合との連携による移住相談会を開催しました。

■「石狩地域エゾシカ対策事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



道東地域においては個体数・農林被害ともに減少してきているエゾシカですが、管内においては増加傾向にあると推定されています。大都市近郊の新たな生息地とみられる道立自然公園野幌森林公園において、生息状況調査や対策の実施に向けた合意形成に取り組んでいます。

野幌森林公園の森林植生(草本等)の食害状況の基礎調査を春と夏に実施したほか、9月から12月にかけて4回の野幌シカセミナーを開催しました。

■「地域特性を活かした総合的な少子化対策推進事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



管内の出生率向上に向け、若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりなど少子化対策の取組を進めています。

結婚・出産・子育てをテーマとした大学生と大人の意見交換会や、保育士を志す学生を対象とした仕事と家庭の両立に対する意識調査を実施しました。

また、仕事と家庭の両立支援に関し、国・道・支援機関によるネットワーク会議を開催するほか、イベント情報の共有化やポータルサイトを開設しました。

■「石狩地域自転車活用促進事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



自転車は、社会環境が複雑に変化、多様化する中、環境負荷の低減や健康増進、観光振興、さらには災害時の活用など、その果たす役割が大きく広がっています。

北海道では、平成30年4月に北海道自転車条例を施行し、自転車の活用や安全な利用の推進に関する施策の総合的な推進を図っていることから、恵庭市のイベントで自転車走行体験を行うなど自転車交通安全教育の推進や損害賠償保険等の加入促進などの北海道自転車条例の普及啓発を行いました。

石狩振興局

■「地域防災力強化事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



近年、巨大地震やゲリラ豪雨の発生などにより、住民避難が必要となる事態が多発していますが、自治体の避難勧告・指示の発表が、住民の適切な避難行動に必ずしも結びついていないことから、防災教育の重要性が増しています。

地域の実態を踏まえた、きめ細かな取組を行うことで、住民の防災意識を高め、地域防災力の向上を図ることを目的に、支援事業を行っており、6月2日に千歳市民防災講座で講師の派遣と参加者への防災啓発を実施しました。

■「『さっぽろ圏』若者定着促進広域連携事業」(地域経済に関連する取組)



札幌圏における人口減少問題に適切に対処するため、産官学金労等により構成される推進組織「札幌圏地元定住促進協議会」を平成27年に設立しました。石狩振興局は、全体のコーディネーターとして協議会の事務局を担うとともに、広域展開により効果を発揮する事業を実施しています。

首都圏大学生と石狩管内企業若手社員との交流会をはじめとする首都圏からの人材還流を促す事業や、札幌圏における地元就職を促す事業などを実施しました。

■「北海道150年記念・イシカリ150プロジェクト」(その他)



北海道命名150年を記念し、石狩管内にゆかりのある絵本をイシカリ150絵本として15冊選定しました。次代を担う子供たちの地元への愛着を醸成することを目的に、管内8市町村の協力のもと、イシカリ150絵本およびノベルティグッズ(自由帳、クリアファイル)の提供によるイシカリ150絵本を活用した読み聞かせを実施したほか、管内の図書館や美術館でイシカリ150絵本に関する行事に取り組みました。

後志総合振興局

■ 「家と人の循環によるまちづくり」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



急速に進行する人口減少や高齢化に対応し、定住人口の増加を図るため、市町村や関係団体と連携し、空き家対策や住宅政策などと連動した取組を実施しました。

道内で唯一の官民連携広域型空き家バンクである「しりべし空き家BANK」の活用促進のため、固定資産税通知へのチラシ封入による登録件数増に向けた取組みや、新規就労希望者向けの「しりべし夏の就業フェア」で住宅相談会を開催し、新規就労・居住予定者に向けた住宅相談や空き家BANKのPRなど、各種取組を実施しました。

■ 「ShiriBeshi 農林水産業確立プロジェクト」(地域経済に関連する取組)



都市部からの移住希望者を対象に、地域の林業で働くイメージをつかんでいただき、新たな林業の担い手を確保することを目的に、林業お試しツアーを開催しました。

ツアーには、男性3名、女性1名の参加をいただき、林業の概要説明、地域移住情報の提供、苗木生産見学、移住者へのヒアリング、チェーンソーや林業機械の操作体験、製材工場見学を実施しました。参加者に対して引き続き移住や林業就業についての情報を提供していきます。

■ 「ShiriBeshi 観光のグリーンシーズン誘客事業」(地域経済に関連する取組)



後志地域の特色であるスポーツツーリズムや後志の文化・教育などグリーンシーズンの多様なコンテンツを活用した、魅力ある観光地づくりをすすめ、観光誘客につなげています。

オーストラリアのメディアと台湾のブロガーを招へいし、WebやSNSによりインバウンドに向けた魅力を発信したり、バンコクでのプロモーションに参加しました。また、関西の高校に後志の教育旅行のモデルルートやコンテンツを紹介し、教育旅行誘致をすすめるなどの取組を行っています。

■ 「Shiribeshi グローバルワークプレイス推進事業」(地域経済に関連する取組)



現在、後志管内で生じている人手不足の改善を図るため、道内外や海外から多様な人材を発掘・確保し、就業を促進しながら、彼らが活力を持って働く場所(グローバルワークプレイス)を構築します。

道内外の転職イベント等に参加し、2名の方が管内での就業・起業に結びつきました。この取組を通じ、リゾートエリアをはじめとした、地域に必要な働き手を確保するとともに、国内外からの投資を呼び込み、地域の持続的発展を目指します。

後志総合振興局

■「ShiriBeshi 世界へのゲートウェイ化事業」(地域経済に関連する取組)



後志の特産品の管内の消費拡大や道内外への販路拡大・海外市場への販路開拓を図るため、イベント等に合わせた物産販売会や商談会、外国人旅行者向けの試食会等を開催し、観光と一体化したPRを行っています。

ニセコクラシックレース会場で行った物産販売会において、後志管内の特産品を外国人も含め来場者に広くPRできました。

また、商談会や試食会では後志管内の良質な食材を広くPRし、販路拡大を図ることができました。

■「北海道新幹線開業等“しりべし”交流拡大事業」(地域経済に関連する取組)



北海道新幹線の開業効果を後志管内へ広く波及させるため、地域の機運醸成を図るとともに、観光誘客の促進や地域の魅力向上、道南圏等との交通アクセス網の充実・強化に向けた取組を行っています。

「北海道新幹線しりべし協働会議」構成員とともにキャラバン隊を編成し、東北の主要都市である仙台市において新幹線を利用した後志観光のPR活動を実施しました。

■「道央・道南広域観光推進事業」(地域経済に関連する取組)



道央(後志・胆振・日高)、道南(渡島・檜山)が広域連携し、魅力を発信して、国内外からの観光客を誘致し広域観光を推進しています。

担当者がワークショップや意見交換会を通じて、お互いの地域や自分の地域を知り、広域観光をどう進めて行くかを検討しながら、函館黒船(7月函館市)での国内客へのPRや、ニセコジャポニカ(2月ニセコ町)でインバウンド向けのPRを連携して行いました。

■「しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプラン推進事業」(地域経済に関連する取組)



後志地域では、夏季の農業等の人手不足分野の人材確保対策として、冬季にニセコ周辺地域やキロロ、ルスツなどのリゾート地域で勤務している方々に夏季の仕事や住まいを紹介し、人手不足対策と移住人口の拡大を図る取組を行っています。

通年の無料職業紹介と2月に開催した合同就業フェアを通じて133件の求職問合せがあり、23名の方が農業やアウトドア産業などの仕事にマッチングしました。

後志総合振興局

■ 「ShiriBeshi グローバル人材育成プラン」(地域経済に関連する取組)



外国人観光客にも対応でき、日本や地域のことを伝えられるような「グローバル人材」を地域で育て、中長期的に確保していくことを目指しています。

地元の高校生に地域の魅力を外国人に英語で伝える機会を創る「プレゼン事業」や、都市部の若者らに管内の外資系企業等でのインターンシップや地域交流のプログラムを企画する「Shiri Beshi 留学」を実施しました。これらの取組により、グローバル人材育成の拠点化によるUIターン人材を増やしていきます。

胆振総合振興局

■ 「いぶりの「食ブランド」レベルアップ事業」(地域経済に関連する取組)



胆振管内の食の魅力を上向きさせ、地域住民はもとより道内・道外への情報発信を強化するため、生産基盤の維持強化や食の磨き上げ並びに魅力発信に関する事業を実施しています。

札幌市や首都圏において、いぶりの食材を活用した料理や加工食品の販売を行ったほか、いぶり食のアンバサダーから商品開発や販路拡大に向けたアドバイスなどを行いました。また、胆振の水産物の消費拡大と魚食の普及を図るため、一般市民を対象に料理講習会を開催して胆振のお魚のPRを行いました。

■ 「「いぶり・6次観光」促進・情報発信事業」(地域経済に関連する取組)



胆振地域では、工場夜景を始めとする産業観光や豊富な食資源、文化、歴史など様々な観光資源が存在しており、これらを活かした観光旅行の商品化、道内外での観光プロモーションを展開しています。

旅行代理店向けの産業観光検証ツアーを実施し、観光素材の商品化・ビジネス化に取り組んだほか、札幌市、東北、関東、関西で観光プロモーションを実施し、胆振地域の魅力をPRしました。

■ 「胆振四大遺産等地域資源活用事業」(地域経済に関連する取組)



世界的な価値を有する胆振四大遺産(「洞爺湖有珠山ジオパーク」・「縄文遺跡群」・「アイヌ文化」・「むかわ竜」)を核に、胆振管内の多様な魅力を総合発信することで、住民の誇りの形成を通じた地域活性化を促すとともに、国内外からの誘客促進や交流人口の拡大を推進しています。

胆振四大遺産の魅力を発信するため、イベントを開催し、国内外の観光客にPRを行ったほか、小学生を対象にジオパーク学習交流会を行いました。

■ 「宮蘭航路利用促進事業」(地域経済に関連する取組)



平成30年6月に就航した室蘭市～岩手県宮古市を結ぶフェリー航路の就航を契機に、室蘭市や岩手県沿岸広域振興局と連携し、フェリーの利用促進や交流人口の拡大に向けた取組を行っています。

6月22日の宮古発第一便船内で胆振地域のPRイベントを行ったほか、室蘭、宮古のフェリーターミナルと道の駅を対象に、宮蘭フェリー就航記念スタンプラリーを実施しました。

胆振総合振興局

■「象徴空間 PR 事業」(地域経済に関連する取組)



2020年4月24日、白老町ポロト湖畔に整備される国立アイヌ民族博物館をはじめとした民族共生象徴空間「ウポポイ」のオープンに向けて、古式舞踊や工芸品などアイヌ伝統文化を広く情報発信することで、ウポポイを中心に胆振地域への来訪を促進し、交流人口の拡大を進めています。

ウポポイ開設2年前・500日前PRイベントや民間団体等と連携したアイヌ文化体験イベント等を開催し、地域の機運醸成を図りました。

■「胆振ものづくり産業・林業活性化推進事業」(地域経済に関連する取組)



胆振地域は、優れた技術や製品を持つ企業の「ものづくり」と、地域経済を支える「林業」が重要な産業となっているため、こうした企業や林業のPR、また、若い世代を対象とした担い手の育成に取り組んでいます。

高校生を対象とした職場見学会や技術体験実習、高等学校等の進路指導教員を対象としたものづくり企業の現場視察、管内企業の技術力と製品のPR、林業事業体を対象とした人材確保のためのセミナーなどを実施しました。

■「住みたい・訪れたい「いぶり」地域連携事業」(地域経済に関連する取組)



胆振地域への移住・定住の促進及び交流人口の拡大を図るため、管内市町と連携し、世界的な価値を有する胆振四大遺産の魅力や、移住政策の発信を通じ、地域創生に向けた取組を推進しています。

胆振四大遺産のPRイベントや、北海道ジオパークパネル展、北海道化石フェスト'2019等を東北地方や札幌圏で行ったほか、首都圏で開催された移住フェアに出展し、胆振の魅力をPRしました。

■「胆振150年記念フォーラム」開催事業」(その他)



2018年が、北海道命名150年とともに、明治政府より胆振国(いぶりのくに)が置かれて150年となることを記念して、室蘭民報社との連携のもと、地域住民とともに、次の50年を展望した地域の将来像を探るフォーラムを開催しました。(胆振東部地震の影響により、紙上フォーラムとして開催)

これまで積み重ねてきた歴史を振り返るとともに、未来を展望しながら北海道の誇るべき価値を共有し、歴史、文化、産業等を活かした地域づくりの推進が図られました。

胆振総合振興局

■ 「いぶり ONE 復興プロジェクト推進事業」(その他)




平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震からの復旧・復興に向けた取組を推進するため、被災地域や関係機関等と一体となった総合的な地域振興策を展開しています。

被害の大きかった厚真町、安平町、むかわ町の3町が「復興計画」を策定するにあたって、東日本大震災で被害のあった地域の方々との意見交換会等を開催したほか、道内外で開催したイベントに3町と連携して参加し、特産品の販売や、被災した地域の現状を発信しました。

日高振興局


■「ひだか戦略総合情報発信事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、日高管内の交流人口の増加につなげるため、地域の魅力を体感できる観光プログラムの開発、日高管内の魅力発信に取り組んでいます。

この事業の一環として、観光ホームページ「北海道ひだか観光ナビ」を制作し、管内の観光施設、飲食施設、宿泊施設等の情報や管内で行われるイベント情報などの発信を行ったほか、地域資源である、馬やジオパークの認知度向上のため、馬文化出前教室や小学生ジオパーク学習交流会を実施しました。


■「日高食関連産業振興事業」(地域経済に関連する取組)



日高が有する多様な食資源を活かした商品開発・磨き上げを促進するための「ひだか食研修会」や「バイヤー等による現地指導」など、食関連事業者向けの取組を進めています。

まだまだ認知度が低い「ひだかの食」を道内外の流通業者に紹介するとともに、8月には「日高フェア in 北海道どさんこプラザ」を開催し、日高製品の販売と観光PRによる札幌圏の消費者に向けた認知度向上の取り組みを行いました。


■「馬産地対策・観光推進事業」(地域経済に関連する取組)



日高地域が有する多様な食や観光資源を広く道内外に紹介するとともに、馬産地ひだかの特色を活かし、馬資源等の地域の魅力をPRすることにより、ひだかファンの拡大や誘客を促進して交流人口の拡大を図ります。

この事業の一環として、浦和競馬場や門別競馬場など道内外の競馬場で観光PRを実施したほか、メディアミーティングや、北海道ブロック記者発表会等でプレスリリースを行い、ひだか管内の魅力を効果的に発信しました。

■「農林業被害低減のための鳥獣被害対策事業」(地域経済に関連する取組)



日高管内のエゾシカによる農林業被害額は減少傾向にあるものの、生息数等は未だ高い水準にあるため、数の低減を図ることが必要です。しかし、軽種馬生産が盛んな日高管内においては、銃による捕獲が困難な地域が存在することなどから、わなによる捕獲を促進し、エゾシカ个体数の減少と農林業被害の低減を図るための「わな出前講座」を開催しました。

また、ヒグマ対策として、デントコーン畑に侵入したヒグマの追い出し手法の普及も行いました。

日高振興局

■「日高アイヌ文化魅力発掘事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



日高振興局では、アイヌ文化の魅力の再発掘・再発信に取り組み、「北海道・日高アイヌ文化」を軸とした地域づくりと交流人口増加を目指しています。

日高アイヌ文化を紹介する映像を作成し、魅力ある地域文化としてPRを実施したほか、関係者等による「共生のふるさと・日高国ワークショップ(検討会)」を開催し、道外の旅行業者の担当者を招聘してのプレゼンの実施やアイヌ文化施設見学会、親子文化体験会を開催しました。

■「日高軽種馬産地活性化推進事業」(地域経済に関連する取組)



全国唯一の場産地である日高の強みを生かし、軽種馬生産の構造改革や馬関連産業の振興、新規就農者の育成・確保に取り組んでいます。

各町及び農協が構成員となる軽種馬生産構造改革推進会議や各種会議や個別訪問により地域の意見を集約し、8月に場産地中央要請を行った結果、新たな外国人材の受入について、新たに軽種馬部門が一部対象となりました。また、道内外で新規就農を対象としたセミナー等を実施しました。

■「日高地域コンブ生産安定対策事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、日高管内の基幹産業であるコンブ漁業の生産量の安定・向上を図るために、新たな生産安定体制の確立や効率的な漁場管理等が重要であることから、漁場環境調査、雑海藻駆除試験、乾燥機普及等機械化に向けた調査等の実証試験に取り組んでいます。

また、実証試験の結果を基に、日高管内の関係機関で構成する「日高地域コンブ生産安定対策会議」を開催し、今後の取組を検討しました。

■「オールひだか魅力発信推進事業」(地域経済に関連する取組)



日高振興局では、高規格幹線道路日高自動車道厚賀IC開通効果を利用し、広域的な取組を行い地域資源の活用促進や地域の魅力向上と発信力強化に向けて取り組んでいます。

この事業の一環として、札幌の地下歩行空間で管内各町や関係団体と観光物産展を行うほか、輪厚PAや札幌競馬場等、管内外様々なイベント等で日高の魅力のPRを行いました。

日高振興局

■「様似町アポイ岳における日本ジオパーク全国大会に関連した魅力発信事業（地域経済に関連する取組）」



日高振興局では、第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会の開催支援をするとともに、松浦武四郎とゆかりのある様似町での開催である同大会において、北海道150年事業に関するPRを実施することにより相乗効果を図りました。

また、札幌駅前通広場北大通交差点広場におけるパネル展を開催するなど、地域への誘客促進と交流人口の増加、振興局間の連携強化とジオパーク協議会とのネットワーク構築を図りました。

渡島総合振興局

■ 『北の縄文』 魅力発信・ファン拡大推進事業』（その他）



世界遺産登録を目指す縄文文化遺産について、地域住民に対し、理解促進やファン拡大を図るため、官民連携の縄文 PR トークショーや縄文 PR イベントを実施したほか、関係機関と連携し、観光資源として活用するための縄文コンテンツを検討するワーキングを開催しました。

縄文 PR トークショーには延べ 136 名、縄文 PR イベントには約 76,000 名の地域住民や関係者の来場があり、世界遺産登録に向けた地域の更なる機運の醸成を図りました。

■ 「道南地域食振興ネクストステージ事業」（地域経済に関連する取組）



道南地域の食の更なる魅力向上とブランド力の強化を図るため、独自性・優位性のある一次産品と二次・三次産業の連携により新たな食の魅力を創造するとともに、道南地域産品の海外展開を含めた販路を拡大するための取組を実施しています。

世界料理学会 in HAKODATE と連携した食材見本市、百貨店バイヤーや専門家を集めた相談・商談会「道南食のブランドフェア」の開催、更には輸出勉強会、イバウンド向け新商品開発など、海外への PR と海外展開に向けた事業を重点的に実施しました。

■ 「北海道新幹線開業による観光地域づくり推進強化事業」（地域経済に関連する取組）



北海道で本州に最も近い立地を活かし、津軽海峡を挟んだ青森県、道南の自治体、JR 等の関係団体と連携し、道南と青森を 1 つの広域観光エリアとして、観光客の誘客拡大に向けた広域周遊観光の PR に取り組んでいます。

首都圏や東北エリアなどの JR の主要な駅で、ステージイベントや観光パンフレットを手渡して、最新の観光情報を直接伝えたり、旅行会社等に対して観光情報の提供や旅行商品造成を促すなど、積極的な観光キャンペーンを実施しました。

■ 「渡島スマートアグリ構想推進事業」（地域経済に関連する取組）



人口減少社会に対応した農業スタイルを確立するため、地域農業の効率化・高度化の検討を進めています。

ビニールハウスの省力化技術である「自動かん水装置」、トラクター等の農業機械に設置できる「GPS ガイダンスシステム」、酪農経営における「搾乳ロボット」の実証試験を新たに開始しました。

また、2 月には、八雲町において先進的な農業技術を紹介するスマートアグリセミナーを開催しました。

渡島総合振興局

■「農と浜のコンパクトツーリズム促進事業」(地域経済に関連する取組)



農山漁村の活性化を図るため、北海道新幹線の開業により増加が見込まれる教育旅行や観光客を対象とした体験観光の受入体制の整備や情報発信を行い、周辺農・漁村部への観光客の入り込みを促進し、交流人口の拡大や体験観光の推進を図っています。

教育旅行受入れに意欲や興味のある生産者などを対象に、すでに受入れに取り組んでいる生産者の声や一般的に旅行会社や学校が受入生産者に求めることなどについて、セミナーを開催しました。

■「みんなですすめる木づかいプロジェクト！」(地域経済に関連する取組)



地域材である道南スギの認知度向上と需要拡大を図るため、地元の建築家やデザイナー等の異業種と連携した「木づかいプロジェクト検討委員会」を中心に、学生等と連携して林業・木材産業への就業促進と地域材の普及PR活動を行っています。

道南スギの地域ブランドとしての確立を目指した「新箱館家具」デザインコンペを開催し、全国から29作品の応募がありました。最優秀賞を受賞した作品は、翌年に製品化し、展示販売会を開催します。

■「ブリの消費拡大推進事業」(地域経済に関連する取組)



ブリは渡島管内で漁獲量が増加しているものの、道内ではまだまだ馴染みが薄く、道内での消費量は全国に比べて低迷していることから、ブリの消費を拡大させるべく、生産・加工・行政で構成する「はこだて・ブリ消費拡大推進協議会」を平成30年5月1日に設立しました。

ブリの料理コンテストやPRイベント、教育機関などでブリの授業を開催したほか、イカ珍味に替わるブリ加工品の開発支援などに取り組んでいます。

■「渡島水産塾～担い手育成推進事業」(地域経済に関連する取組)



基幹産業である水産業の担い手の確保を図るため、漁業に接する機会が少なかった新規高卒予定者等を対象に水産業へ関心を持つ機会を提供する各種体験を行っています。

7月に函館市内高校生を対象に、コンブ養殖漁業体験等を行い、参加した生徒からは、「漁業や水産業へ興味を持つことができた」などの前向きな感想が寄せられました。



渡島総合振興局

■「就業・定住促進対策推進事業（農林水産分野）」（地域経済に関連する取組）



渡島地域の農林水産業への就業及び定住を推進するため、管内市町と連携を図りながら就業情報や生活情報を一元化し振興局のウェブサイトで広く発信しています。

札幌内で行われた就農フェア等でウェブサイト「おしまぐらし」のPR等を行いました。

■「就業・定住促進対策推進事業（医療介護福祉分野）」（地域経済に関連する取組）



渡島地域への医療介護福祉分野への就業及び定住を推進するため、北斗市及び北斗市内の社会福祉法人と連携し、首都圏在住者を対象とした就業体験モニターツアーを実施しています。

東京都内での介護福祉職就業・移住に関する説明会の開催やホームページによりツアー参加者を募集し、福祉施設の視察と就業体験を実施しました。

■「おしま交流人口拡大促進事業（インバウンド）」（地域経済に関連する取組）



インバウンド対応に関して課題を抱えている観光関連施設等に専門家を派遣して、希望するテーマについて集中的なアドバイスを受けていただく機会を設けています。

外国のお客様が宿泊するホテルでは、多様な食文化に対応するため、専門家の方をお招きし、ムスリム・ベジタリアン食への対応や、代替食品、メニュー開発の事例などを通じて、外国人旅行者の受入環境の向上を図ることができました。

■「おしま交流人口拡大促進事業（スポーツ合宿）」（地域経済に関連する取組）



北海道新幹線開業による更なる交流人口の拡大を目的に、市町等の広域的な連携によるスポーツ合宿受入体制の構築支援を行っています。

渡島西部4町スポーツ合宿誘致協議会（松前町、福島町、知内町、木古内町）では、8月5日～12日まで4町が連携して高校野球合宿の受入れを行い、合宿参加者のニーズに合わせたサービスの提供や実施体制の課題解決に向けた取組を進めています。

渡島総合振興局

■「渡島歴史文化フォーラム・ワークショップ」(その他)



北海道 150 年を契機に、次世代を担う子どもたちがこれからの未来を考え、次の 50 年への一歩を踏み出すためのきっかけを作るための取組を実施しました。

ノーベル化学賞を受賞した鈴木章北海道大学名誉教授による講演を含む北海道 150 年記念イベント「歴史をつむぐ、未来へつなぐ」を開催したほか、北斗市での植樹祭、道南れきぶんカードの作成など、地域で受け継がれてきた歴史や文化に触れる機会を創出しました。

■「北前船等の道南の歴史文化を活用した地域づくり事業」(地域経済に関連する取組)



日本遺産に認定された「北前船」の寄港地として育まれた道南地域の歴史・文化を活用した地域づくりに向け、広域観光の促進や歴史・文化の普及啓発に関する取組を実施しました。

北前船の魅力を子どもたちに伝えるバスツアー・ワークショップを開催したほか、魅力的な広域観光ルートを構築し、誘客を促進するため、有識者などを招いたモニターツアーを実施しました。

檜山振興局

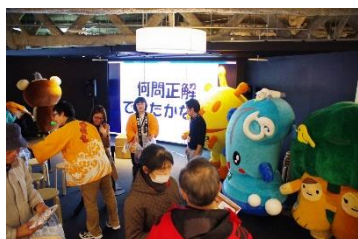
■檜山の水産物付加価値向上対策事業（地域経済に関連する取組）



檜山管内産水産物の価格向上に関して、漁業者や加工流通業者等の関係者と連携して取り組み、漁業者の所得向上と地域経済の活性化を目指しています。

新たに開発した商品等について、イベント出展等でPR活動を行い、商品等に対する認知度の向上と水産物の販路開拓を進めました。また、神経締めなどの高度な鮮度保持技術による魚価の向上を目指し、魚類の鮮度保持技術講習会を実施しました。

■檜山地域における新幹線観光対策事業（地域経済に関連する取組）



北海道新幹線開業を生かし、檜山地域への観光客の流入促進及び経済波及効果を楽しむことができるよう、檜山地域の食の磨き上げ、販路拡大及び観光振興に取り組んでいます。

檜山地域を訪れる観光客を対象とした動態調査を実施し、効果的に着地型観光を推進するための基礎的なマーケティング資料として活用しているほか、首都圏・東北圏における北海道物産展等を活用した観光・物産プロモーションを実施しました。

■檜山農業生産力底上げ・人づくり推進事業（地域経済に関連する取組）



既存の高収益作物の生産性向上や新たな作物導入等により生産力の底上げを図るとともに、担い手の育成や新規就農の仕組みづくりに取り組んでいます。

春まき小麦「春よ恋」の低収要因について、生育及び収量等の実態調査を行い、要因の解明により、檜山の農作物の生産性向上による生産力の底上げを図りました。また12月には、女性農業者等の理解促進を目的に「農村女性フォーラム」を開催しました。

■みんなで学棒（まなぼう） 檜山の木利用促進事業（地域経済に関連する取組）



道南地域特有の「スギ」の利用を道内に広く波及させるため、需要拡大に向けた検討や地材地消の推進に取り組んでいます。

建築関係者などと地域材の新たな用途の検討などを進めるとともに、PRイベントとして、町の産業まつりと連携した道南スギのイスづくりを実施しました。また、地元の高校と連携し、生徒が考案した「木のおもちゃ」を保育園実習で活用する「地材地消講座」や、商業施設と連携した「木工体験講座」を実施しました。

檜山振興局

■「輝け地域おこし協力隊！交流連携プロジェクト事業」（地域経済に関連する取組）



交流人口の拡大を目的として、地域おこし協力隊等への支援と、「津軽海峡交流圏」の連携促進事業に取り組んでいます。

地域おこし協力隊研修会を開催し、隊員等の地域力向上を図ったほか、渡島・下北・津軽の三半島の伝統芸能祭を青森県五所川原市で開催しました。本事業により、津軽海峡交流圏の地域づくり団体による自主的な交流活動や、それをきっかけとした個人旅行が見受けられるようになっていきます。

上川総合振興局

■「道北地域交流人口拡大推進事業」(地域経済に関連する取組)



交流人口の拡大により道北地域の地域振興を図るため、北部においては天塩川、中部においては大雪山をテーマとして地域の魅力を発信するとともに、貴重で豊かな自然環境を保全する取組を展開しています。

北海道命名150年の節目の年にあわせて、記念式典や松浦武四郎パネル展等を開催し、地域の魅力発信に取り組みました。また、自然観察会や登山道補修事業等の取組により、環境保全等に対する意識の醸成を図りました。

■「食」や「食文化」を観光資源とするフードツーリズム推進事業」(地域経済に関連する取組)



上川総合振興局では、「食」や「食文化」の力を活用し誘客を図る「フードツーリズム」の推進に取り組んでいます。

管内の魅力ある食品を「かみかわ食べものがたり」に、また、訪れて楽しめるレストラン等の情報を「かみかわフードツーリズム」として発信するとともに、生産者・観光事業者等を対象としたワークショップの開催を通じ、上川の食コンテンツを活かした観光地づくりや異業種交流による新たな取組の実現を進めています。

■「持続可能型上川農業確立推進事業」(地域経済に関連する取組)



今後の人口減少に対応した持続可能な農業を確立するため、ビニールハウスの管理など施設園芸へのICTを活用した省力化技術の導入や水稲や園芸作物の低コスト省力化技術や収益性の高い新規作物の導入などさらなる省力化、高収益化に向けた取組を進めています。

これらのモデル構築のため、検討会や現地指導、現地研修会を実施しました。

■「地域森林資源利用推進プロジェクト事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



林地未利用材を有効活用した木質バイオマスのエネルギー利用促進や道産材家具の利用を拡大することにより、地域資源管理体制を構築し、山村地域の活性化を図っています。

地域内での集材・流通方法の効率化に向けた取組や低コストなボイラーの普及PRなどを行ったほか、広葉樹資源の利用に向けて、道有林から産出した木材が、地元の製材工場や旭川家具にどのように供給され、旭川ブランド家具に仕立てられるのかを学ぶバスツアーを開催しました。

上川総合振興局

■「かみかわ地域産業担い手対策事業」(地域経済に関連する取組)



地域を支える産業(農業・林業・商工業)の担い手・後継者を確保・育成するため、産業別の課題に応じた取組を進めるとともに、道外に向けて上川地域の魅力をPRしています。

東京都内で移住セミナー及び個別相談会を実施し移住情報の発信に取り組んだほか、管内の農業高校等において農業・林業学習会を実施、新規就農者に対し農業経営に係る講演や交流会を実施しました。さらに管内関係機関と連携し事業者向けセミナーや事業継承に係る個別相談会を実施しました。

■「スポーツ合宿ブランド化推進事業」(地域経済に関連する取組)



2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催控え、スポーツ合宿誘致に係る機運の高まりなどスポーツへの注目が集まっており、スポーツを通じた社会参画や合宿の誘致などスポーツを通じた地域の活性化の推進に取り組んでいます。

「スポーツに携わる魅力」をテーマにソチオリンピック元ノルディック複合日本代表の加藤大平氏と障害者スポーツ支援団体ソーシャルスポーツマネジメント代表の山田賢治氏を招きフォーラムを開催しました。

■「かみかわ地域連携創出事業」(地域経済に関連する取組)



管内の広域的な人的ネットワークづくり等を目的に将来を担う市町村及び各種団体等の若手が意見や情報の交換を図る学ぶ場を設置することで、上川地域の持続的な発展と、それを支える人材の育成に向け、取組を展開しています。

地域の共通の課題である人口減少をテーマにフォーラムを開催しました。

■「未来づくり感響プロジェクト事業」(地域経済に関連する取組)



豊富な森林資源を背景に発展してきた旭川家具の将来の担い手確保や需要推進を図るため、旭川家具の生産や木材加工等に携わる幅広い関係者が連携し、中学・高校等で活用できる学習ツールを検討・制作し、トライアル授業の実施を通して検証・改良し、普及を図る取組を行っています。

地場産業である旭川家具の製造から材料のルーツである森林まで理解することのできる学習プログラムを作成し、学校での体験授業を実施しました。

上川総合振興局

■「大雪の魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



大雪カムイミンタラ DMO の設立やインバウンドの増加、さらには「カムイと共に生きる上川」の日本遺産の認定など「大雪山」を活用した産業振興の機運が高まりを見せており、近年、増えつつあるサイクリング観光客の受入体制の整備に向けたフォーラムの開催、魅力発信拠点の設置による大雪圏域における自然や食、文化といった魅力発信やDMOや関係団体と連携し、大雪山ブランドを活用した産業振興の取組を実施しました。

■「松浦武四郎の絵本制作事業」(その他)



天塩川周辺地域の市町村と連携し、北海道150年のキーパーソンである松浦武四郎の功績や天塩川周辺地域の魅力を道内外の子どもたちに絵本を通しわかりやすく発信し、北海道150年のPRと多くの方々に本道の歴史の理解促進を図ることを目的に絵本を制作することとし、ストーリーづくりのため松浦武四郎に詳しい学芸員らと対談を行い絵本の「あらすじ」を作成しました。

留萌振興局

■「るもいの豊かな海と森を育む事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



留萌地域の豊かな水産資源や森林資源を持続的に有効活用し、地域の産業振興や雇用確保を図るため、関係機関と行政が連携し、海と山が一体となった取組や新たな販路拡大の仕組みづくりなどを行っています。

天売島で森と海の世界環境教育を実施し、島内の木材を有効活用する2台目の薪ストーブが設置されたほか、留萌産トドマツ材の利用拡大に向けたセミナーの開催、ペレットストーブの燃焼展示や貸出、木工体験などを実施しました。

■「留萌健康産業展開促進事業」(地域経済に関連する取組)



「食と健康」を基盤に、留萌地域の特性を活かした健康産業の展開と確立を図るため、地域資源の活用や地域住民等の連携による各種プロジェクトを進めています。

地域住民の健康意識の向上と地産地消を促す「るもい健康スムージー」のPR活動や、NPO法人等と連携した「留萌エディブルフラワー(食用花)」や「苫前町ハマボウフウ」の普及啓発、販売に対する支援といったコミュニティビジネスの推進等に取り組まれました。

■「るもい産業担い手支援モデル事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域の担い手確保対策として、就農希望者への情報発信、地域一体となった担い手の育成・確保の推進、地域おこし協力隊に関する活動支援を行っています。

就農希望者等を対象にした相談会への出展や地域おこし協力隊を対象にした意見交換会などを実施するとともに、商工分野においては、専門家派遣や相談会出展等により、経営相談や既存商品の販路拡大、新商品開発などに対し、多岐にわたる支援に取り組まれました。

■「るもい地域戦略的魅惑創造発信事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域の知名度の向上と、札幌や旭川など都市部からの観光客の誘客促進を図るため、管内8市町村と連携し、札幌市の地下歩行空間で「オロロンラインプレゼント♪冬のもい大物産展 in チ・カ・ホ」を開催したほか、旭川市で開催された「地場産フェア」に参加し、留萌地域の食と観光のPRを行いました。

また、留萌地域のイメージを表す観光ポスターを作成し、道内外の観光施設等へ配布・掲示を行いました。

留萌振興局

■「るもい”農”フル活用推進事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域は、道内有数の良食味米産地で、生産者の努力により「留萌管内産米」は、高い評価を受けています。更なる農業所得の安定確保を目指し、水稻の低コスト栽培技術の確立や転作作物（小麦・大豆など）の品質向上に取り組んでいます。

南るもいエリアのみで生産されているパスタ適性の高い超強力小麦粉「RuRu Rosso」を広くPRするため、商談会や物産展に出展しました。今後も、引き続き小麦の安定生産や販路拡大に向けた取組を行っていきます。

■「豊かな恵みを活かす水産業の振興支援事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域のホタテガイ養殖業の持続的発展を目指し、漁業者、民間企業、行政機関などが連携し、生産工程の効率化や就労環境の改善に向けての取組を推進しています。

生産工程の現地調査を行い、作業における問題・課題について検討会を開催し、機械化・省力化の可能性を協議するとともに、作業従事者の労力軽減のための試験を行うなどの取組を行いました。

■「天売島におけるアザラシ対策事業」(地域経済に関連する取組)



春先（4月～6月）の天売島は、ゴマフアザラシの来遊とカレイ類の時期が重なり漁業被害が多数発生する一方、ウミガラスなどの希少な海鳥の繁殖期が重なるため、海鳥の繁殖に影響を与えない捕獲手法を試行する取組を行っています。

天売島の白磯地区で海鳥の繁殖に影響を与える装薬銃は使用せず、捕獲する際の音が小さいエアライフルを用いた捕獲を試行しました。

今後も新たな捕獲手法の検討を行っていきます。

■「増毛山道推進事業」(その他)



増毛山道は、幕末期に浜益～増毛間に開削された山道ですが、戦後、利用者の減少で山中に埋もれていました。平成21年に復元事業が始まり平成28年10月全線27kmの再生が完了したことから、歴史遺産としての価値の周知と、利活用の促進を図るため、(NPO)増毛山道の会等と連携した取組を推進しています。

7月に浜益小学校と増毛中学校において山道学習会を実施したほか、新たに日本語の他、英語訳を併記した「山道ガイドマップ」を作成・配布しました。

留萌振興局

■「るもいライフ体験促進事業」(地域経済に関連する取組)



留萌地域の知名度アップと体験移住の利用促進を図るため、地域の魅力を一体的に発信する取組を管内8市町村と連携して行っています。

管内市町村の体験プログラムや体験移住用住宅などの情報をまとめたパンフレット「るもい管内移住ガイド」を作成・配布したほか、首都圏での移住イベント等において、北海道への移住希望者を対象に地域の情報発信や移住相談会を実施しました。

■「るもい災害復興関係事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



9月に発生した北海道胆振東部地震では、大規模停電が発生、留萌地域でも行政機能関係や商工・農業関係など、多くの分野で支障が出たことから、今後、留萌地域の停電対策の取組を推進するため、危機管理アドバイザーで(株)あかりみらいの代表取締役 越智文雄氏を講師として招き、「危機管理停電対策セミナー」を開催しました。

■「150年記念・山道シンポジウム&トレッキング事業」(その他)



松浦武四郎が6回の蝦夷地探検の内、留萌地域を3度往来していることから、北海道150年事業として、増毛山道を中心にトレッキングやシンポジウムなどを通して武四郎の足跡を追体験する事業を展開し、山道を北海道開拓期の歴史・文化遺産として、次世代に継承する取組を推進しています。

8月に増毛町文化センターにおいて開催した山道シンポジウムに80名以上の来場者があったほか、6回実施した記念トレッキングには、86名の参加がありました。

宗谷総合振興局

■ てっぺん宗谷へ！コラボDE移住・担い手対策事業（Act 1、3）（地域経済に関連する取組）



宗谷管内は就職や進学を契機とした若年層の社会減が著しいことから、管内の人口減少の進行を緩和するため、地域の一次産業を中心とした魅力発信や移住・定住を促す取組を進めるなど、人口流出の抑制及び管内への人口流入の促進を図っています。

宗谷地域の魅力をまとめたPR動画の作成や、地域おこし協力隊の地域への定着を促す取組、移住プロモーションなどを行いました。

■ 「国境を越えた交流 海外との経済交流促進事業」（地域経済に関連する取組）



2018年は北海道とサハリンとの友好・経済提携20周年を迎えるなど、改めて宗谷地域とサハリン州との歴史的な結びつきに注目が集まりつつある中、若い世代を含む、地域住民の方々にサハリン交流の歴史を再認識してもらい、未来へ引き継いでいくための啓発事業を行っています。

宗谷管内住民向け啓発資材「となりのサハリン」小冊子の作成やサハリンガイドブックの更新を行いました。

■ 「宗谷の「ショク×タビ」プロジェクト形成促進事業」（地域経済に関連する取組）



宗谷地域における食と観光の企業間連携や販路拡大、道内外からの観光客の誘客促進を図るため、特産品販売や観光PRなど、食と観光の一体的なプロモーションを継続的に取り組んでいます。

管内で乳加工セミナー等を開催して宗谷ブランドの磨き上げをする一方で、札幌市で開催した「宗谷の『ショク×タビ』フェア」や首都圏の飲食店とタイアップした「宗谷フェア」を実施して知名度向上や販路拡大に取り組みました。

■ 「『宗谷の歴史・文化』魅力発信による観光地域づくり推進事業」（地域経済に関連する取組）



宗谷管内には、歴史的な遺産や文化などの貴重な地域資源がいくつも潜在していることから、その魅力を道内外へPRするために管内の自治体、観光事業者などと連携し、地域資源にテーマ性やストーリー性を交えた情報発信に取り組んでいます。

管内を訪れた観光客がリピーターとなって再訪してもらえるよう、各地の観光スポットで専門家同行のもと現地調査を実施し、新たな地域資源の発掘や観光コンテンツの磨き上げを行いました。

宗谷総合振興局

■「てっぺん宗谷へ！コラボDE移住・担い手対策事業（Act2）」（地域経済に関連する取組）



宗谷地域では、農業の担い手不足が深刻化しているため、地域や農業の魅力を道内外にPRするとともに、教育旅行生を呼び込むための構想及び受入体制整備に取り組んでいます。

都市部の大学生を対象に「北海道宗谷酪農体験ツアー」を実施し、ファームステイを通じた酪農実習を行いました。また、事務局を中心に連絡調整を行い、約100名の教育旅行生を受け入れ、宗谷の魅力を感じてもらうための取組を行っています。

■「若手の力で宗谷をかえる！『SOYA fresh☆network』事業」（地域経済に関連する取組）



若手世代の資質向上及び連携体制の構築を図り、宗谷地域を一層発展させることを目的として、宗谷管内の市町村及び団体・企業の若手職員が集まり、地域課題を共有し、その解決に向けて話し合う研修会などの取り組みを行っています。

研修会を計7回開催し、延べ399人が参加しました。また、facebookを活用し、宗谷の情報発信を行いました。

■「港区連携事業」（地域経済に関連する取組）



北海道宗谷地域と東京都港区が互いの地域の特色を活かし、交流人口及び経済交流を拡大することを目的とした「北海道宗谷地域と東京都港区との連携プロジェクト」に参画しています。

宗谷地域の情報発信や交流人口の拡大を図るため、都市部の人々に宗谷を知ってもらう「みなと区民まつり」への出展や、宗谷地域をPRするための体験イベント等を行う「宗谷イチオシプロモーション」の開催等を行いました。

オホーツク総合振興局

■「人口減少社会を見据えたオホーツク地域来訪推進事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク地域への来訪促進による交流人口の増加や地域産業の活性化を図るため、食や観光をはじめとしたオホーツク地域の魅力を道央圏や道外に広く発信しています。

1月23日・24日に市町村・オホーツク観光連盟や各観光協会等関係団体などと札幌駅前通地下広場「チカホ」において「オホーツクフェア2019」を開催し、特産品の販売、管内市町村などによる観光PRを実施しました。

■「オホーツク航空路線活性化事業」(地域経済に関連する取組)



国内外の新規就航路線やチャーター便の誘致、既存路線の利用者数の増加による交流人口の拡大や地域経済の活性化を図るため空路路線活性化の取組を行っています。

中部圏からオホーツク圏への来訪を促進するため、岐阜県で行われた中部線利用促進事業プロモーションに参加し、オホーツクールの顔ハメパネルの設置や、観光パンフレットの配布など、オホーツク管内のPRを行いました。

■「オホーツクみらい環境保全推進事業」(環境・エネルギーに関連する取組)



類い希なオホーツクの自然環境をみらいに残していくために、環境保全に係る意識醸成に取り組んでいます。

また、若手職員の育成の一環として、局内横断的なプロジェクトチームを設置し、パンフレットの企画・作成・活用方法について検討・実施しました。作成したパンフレットは、管内の各小学校に配布するとともに、オホーツクに来訪される方向けに、各市町村の道の駅や観光施設等に設置しています。

■「オホーツク・スポーツブランド化推進事業」(地域経済に関連する取組)



スポーツ関係者の交流人口の拡大による地域経済の活性化を図るため、夏は冷涼で日照時間が長いなどの優れた気候特性を活かしたスポーツ合宿の誘致について、管内市町村及び関係機関で構成する協議会において事業の検討を行っています。

合宿参加人数は年々増加しており、市町村と協力して合宿参加チーム(10団体)のお出迎えを行いました。

オホーツク総合振興局

■「知床世界自然遺産のインバウンド受け入れ体制の底上げ事業」(地域経済に関連する取組)



2005年に知床が世界自然遺産地域に登録されてから外国人旅行者が年々増加しており、地域全体として外国人観光客の受入環境整備に取り組んでいます。

冬期間の冬ならではの穴場的スポットを地元の宿泊従業員等が体験し、それを観光客にお伝えしていくためのスキルアップ研修会を開催しました。

■「オホーツク食のブランド戦略強化促進事業」(地域経済に関連する取組)



「オホーツク」のブランド力向上のため、地域資源を活かした多様な産品を道内外に発信しています。

10月5日～10月8日に東京・代々木公園で行われた「北海道フェア in 代々木」に出展し、管内産品の試食販売をはじめ、観光との連携により、オホーツク地域のPRを実施しました。

また、1月には札幌市内でも「オホーツクフェア」を開催し、道央圏の方に、オホーツク地域の魅力を発信しました。

■「オホーツク産農畜産物高付加価値化推進事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク管内の菓子製造業者等と連携して、オホーツク産農畜産物を使ったスイーツを開発し、オホーツクの魅力を発信することで、オホーツクブランドの推進と地域産業の活性化に取り組んでいます。

菓子製造業者とオホーツク管内の大学生が連携を図り、札幌で開催した「オホーツクフェア」や、道の駅で開催した「オホーツクスイーツフェア」において、PR活動を行いました。

■「オホーツク型耕畜連携確立事業」(地域経済に関連する取組)



広大な土地資源を活かし、大規模な畑作が盛んなオホーツク管内において、畑作の輪作体系を改善するため、畜産農家と連携し、飼料用とうもろこしの試験栽培に取り組んでいます。

飼料用とうもろこしを初めて栽培する畑作農家に協力いただき、生育調査や収量調査を行い、輪作改善の効果などの検証に取り組まれました。今後も、耕畜連携を図りながら、畑作と酪農・畜産の相互の発展につながる取組を進めていきます。

オホーツク総合振興局

■「オホーツク農業女性ステップアップ事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツクの農業を支える女性農業者は、農業や地域活動の担い手として重要な役割を果たしており、柔軟性のある強い経営体を作るには、女性の経営参画や経営資質の向上が必要不可欠です。

管内の3地域において、多様な女性農業者のニーズに応じた魅力ある研修メニューを検討するための支援会議を開き、設定したカリキュラムにより農業経営や農業生産技術を取得するセミナー等を開催しました。

■「オホーツク ICT 農業活用支援事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク管内における ICT を利用した農業用機械等の導入拡大と効果的な利活用を進めるため、研究・普及・行政・農業団体が一体となって、ICT 農業の効果的な推進に取り組んでいます。

「オホーツクスマート農業セミナー」を開催し、オホーツク管内の ICT 農業の導入拡大に向け、最新技術の講演や導入事例・効果の紹介などを行いました。

■「オホーツク若年層地域定着支援事業」(地域経済に関連する取組)



オホーツク地域の基幹産業である農林水産業を発展・維持していくため、地域の大学と連携したインターンシップ制度を創設し、若年層新規就業者の確保・定着に向けた取組を進めています。

インターンシップに参加した地域の大学生からは「一次産業に触れたことで今後の視野が広がった」「林業に対するイメージが変わり、就職活動に生かしていきたい」など就業に前向きな感想もありました。

■「オホーツク東部流域地域材活用見える化推進事業」(地域経済に関連する取組)



林業・木材産業が盛んなオホーツク東部流域の地域材を一層活用し、さらなる地材地消を推進する取組を行っています。

地域関係者間で連携して「地材地消」に取り組むことを目的として、平成30年7月に設立した「北見の地域材活用推進の会」において情報共有や取組の検討を行ったほか、11月に北見市民会館で一般住民や関係者を対象とした「地材地消推進セミナー」を開催し、講演会とパネルや木材サンプル等の展示を実施しました。

オホーツク総合振興局

■「オホーツク東部地域造林未済地発生防止モデル事業」(地域経済に関連する取組)



全道で最も多く造林未済地(伐採後3年以上造林されていない伐採跡地)を抱えている北見地域の、森林所有者や後継者などの方々に対し「伐採前に植林を考えてもらう」検討を進めています。森林に対する経営意識の向上のため、所有者に対し森林経営への参画を促すための森林・林業の役割や維持管理に必要な情報や魅力を伝える資料を作成し、それら普及啓発資料を活用した自宅訪問などを実施しました。

■「オホーツクイメージ形成・発信プロジェクト」(地域経済に関連する取組)



オホーツク地域の認知度向上及びイメージアップを目的とした管内18市町村で組織する「オホーツクイメージ戦略推進委員会」と連携し、オホーツクイメージの形成を図るとともに地域の意識醸成や情報発信に取り組んでいます。その一環として管内市町村で開催されるイベントに職員が参加しPRを行いました。また、管外における認知度向上を目的に、首都圏及び中部・近畿地方等のイベントにおいて顔はめパネルの展示やノベルティ配布などによるPRを行いました。

■「オホーツク150パネル展」(その他)



「北海道」と命名されてから150年となる節目の1年を、全道的に盛り上げていくため、オホーツク総合振興局でパネル展を開催しました。パネル展では、オホーツクのイメージコンセプト「オホーツクール」や松浦武四郎関連、管内の「北海道みらい事業」のPR品などを展示し、「オホーツクール」の浸透と北海道150年の機運醸成を行いました。

十勝総合振興局

■「とちかち「食と観光」連携推進事業」（地域経済に関連する取組）



平成28年8月の台風被害からの復興の加速化に向け十勝の強みである「食」や「観光」を最大限活用した取組を推進しています。

地域の関係団体・機関と連携し、道内外において誘客促進の食観光プロモーションを行ったほか、SNS等による情報発信の取組を強化するため情報発信に関するセミナーの開催や、国内の富裕層に向けた長期体験旅行ツアーを実施し、十勝の新しい滞在型観光のモデル構築など様々な事業に取り組みました。

■「とちかち地域資源活用・価値創造事業」（環境・エネルギーに関連する取組）



十勝管内に存在する豊富なバイオマス資源等を利用した再生可能エネルギー活用の取組を、地域住民に周知し理解を促すとともに、利活用の促進を図るための取組を実施しています。

バイオガス利活用の十勝での先進的な取組等をまとめた「十勝バイオガス取組マップ～十勝から循環型環境農業に向けて～」を作成しました。また、12月、3月の環境関連イベントでは、環境体験教室を開催したほかパネル展の実施や体験工作等を通じて、普及啓発活動を行いました。

■「とちかち自然の魅力アップ観光推進事業」（地域経済に関連する取組）



百名山の一つであり、登山者に人気のトムラウシ山は、登山者が残していくし尿や、放置されたティッシュペーパーにより汚れています。このため、山岳環境問題に取り組み、魅力ある観光資源を提供することで、利用促進と観光振興を図っています。

山では携帯トイレを使い、し尿は全て持ち帰るということを普及啓発するためのアンケート調査や、残置された排泄物の清掃のほか、トイレ道の植生を復元する取組を実施しました。

■「生産量NO.1十勝スイートコンライシス！アライグマバスターズプロジェクト事業」（地域経済に関連する取組）



十勝管内では、平成27年度からアライグマの捕獲が急増しており、農業被害を未然に防止するため、十勝管内の市町村、猟友会、帯広畜産大学などと連携し、対策を進めています。

関係者による対策検討会議の開催のほか、対策の必要性を啓発する普及啓発や防除従事者を増やすための講習会などを実施しました。

十勝総合振興局

■「バイオガス資源地域活用促進プロジェクト事業」(地域経済に関連する取組)



家畜ふん尿等を活用した「バイオガスプラント」で、エネルギー化する際に発生する「消化液」の効果的な利用方法を調査・研究するための活動をしています。

耕種作物への消化液散布モデルの実証を管内で行い、試験品種の生育過程において有効性が確認できましたが、今後も継続して観測、利用方法を検討し、北海道農業を牽引する「十勝」から情報を発信できるよう取り組みます。

■「楽々スマート農業活用事業」(地域経済に関連する取組)



GPSを活用したトラクターの自動化がドラマでも取り上げられ、農作業の省力化やロボット技術の導入がクローズアップされています。

農業者や一般の方へ「アシストスーツ」の試着体験を行い、足・腰への負担軽減を体感していただきました。今後も、農業が魅力ある産業でありつづけるため、農作業の省力化技術の普及に向け取り組みます。

■「航空宇宙関連産業と連携した地域産業育成事業」(地域経済に関連する取組)



航空宇宙関連の取組を通じ、交流人口の拡大や関連産業の集積による力強い地域経済の形成を目指しています。十勝管内大樹町においてインターステラテクノロジズ株式会社が日本で初めてとなる民間宇宙ロケットの打上げ実験を実施し、航空宇宙関連の取組が盛り上がりを見せています。

「宇宙日本食」の開発を進めるため、JA 専門家を招聘し、3月に「とちかち宇宙日本食開発セミナー」を開催しました。

■「輝らっ！とちかち女性活力(ジョカツ)創造事業」(地域経済に関連する取組)



女性が地域で活躍できる社会の創造に向け、女性のキャリアアップや起業支援などについて取り組んでいます。

「自分のやりたいこと」を実現でき、生き生きと活躍できるよう、女性の起業に関心のある方を参集し、トークイベントや参加者と交流するセミナーを開催しました。

十勝総合振興局

■「北海道 150 年、温故知新「とがちのむかし・いま・みらい」を知り、学ぶ」(その他)



北海道命名者である松浦武四郎や十勝の歴史関係の所蔵を多く有する十勝管内の団体、民間企業や北海道みらい事業を実施する市町村などと連携し、北海道命名 150 年をきっかけとして、十勝の昔と今と未来について感じることができるイベントを開催しました。

北海道や十勝の歴史に関する資料等の展示、上士幌町の協力を得た熱気球の体験会、鹿追町環境保全センターでのバイオガスプラント等の見学会などを行いました。

釧路総合振興局

■「オールくしろ魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



釧路地域では、道東自動車道の釧路延伸を契機に交流人口を拡大し地域の活性化を図るため、平成25年度に官民一体となった協議会を設置し、オールくしろ体制で地域の魅力発信に取り組んでいます。

7月に札幌で開催されたイベントに出展したほか、1月～3月にかけて、新聞へのシリーズ広告の掲載やキャンペーン公式サイト開設、SNS投稿キャンペーン等を実施し、道央圏や十勝圏へ向けて、道東自動車道の利用促進及びくしろ地域の食・観光のPRを行いました。

■「道東くしろ誘客促進事業」(地域経済に関連する取組)



釧路地域では、道東自動車道の延伸や、釧路ー関西便就航(H30.8月)の好影響を受け、観光入込客数が増加傾向にあります。

この流れを止めることなく、より多くの方々に釧路地域を知ってもらい、訪れていただくため、多言語対応の観光情報ホームページ「GO KUSHIRO」やSNSによる観光情報発信を行うほか、管内自治体や関係団体、道東四振興局と連携し、道内外で観光プロモーションなどを行いました。

■「くしろ」移住・定住推進事業」(地域経済に関連する取組)



「くしろ地域」の持続的発展に向け、交流人口の拡大及び移住・定住による人口の増加を図るため、管内市町村と連携して都市部の現役世代などに向けた、地域の魅力発信を行っています。

市町村の移住・定住関連情報を網羅的に取りまとめたパンフレットを都市部で開催される移住交流イベント等で配布するなど、くしろ地域の情報発信や移住相談会を実施しました。

■「輝ける北の大地で羽ばたく根釧酪農チャレンジング事業」(地域経済に関連する取組)



根釧地域は我が国最大の酪農地帯であり、地域の事業者は、地域で生産した生乳を使用したチーズやスイーツなど、乳製品の6次産業化を進めています。

釧路・根室振興局では、根釧産乳製品の高付加価値化と消費拡大推進のため、札幌・関西での乳製品PR等を行い、根釧の魅力を発信することができました。

今後も消費拡大に向けた取組を実施していきます。

釧路総合振興局

■「スポーツを通じた地域の魅力創出事業」(地域経済に関連する取組)



夏が涼しい気候を活かしたスポーツ合宿の誘致と、栄養豊かな地域食材をPRした地域の新たな魅力を創出するため、官民連携による地域の活性化に向けた取組を進めています。

食の魅力を発信するため、公認スポーツ栄養士である釧路短期大学 山崎教授監修のもと、競技力がアップできる「くしろアスリート食」のメニューを開発し、それを元に講習会の開催や、レシピブックを作成して道内のスポーツ団体などに配布してPRを実施しました。

■「くしろ地域「北海道150年物語」広報・PR事業」(分野名)



北海道150年事業の取組や事業に関連する釧路地域の歴史などを広く周知するため、釧路総合振興局では、釧路市内で開催する「北海道みらい事業」のイベントや、大学の学園祭に参加し、パネルの展示やチラシ・ノベルティ等の配布を行いました。

北海道命名150年のキーパーソンである松浦武四郎と釧路管内との関わりなど、来場者に対して釧路の歴史を振り返る機会を提供するとともに、子どもたちにも分かりやすい形で北海道150年について認知度向上に取り組みました。

根室振興局

■「少子・高齢社会における子育て支援事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



地域が一体となって、安心して子育てできる環境を整え、子育て世帯の負担軽減を図ることを目的に、地域連携による子育て支援に取り組んでいます。

地域における催しの場を活用し、子育て支援に係る意識醸成を図ったほか、中標津町計根別地区で開始した子どもの一時預かりや親子サロン等を、町や団体への働きかけ等を通じ、地域の取組として確立することができました。また、他の地域にも取組が展開されるよう、行政・団体等に働きかけ等を行っています。

■「根室地域医療従事者確保事業」(安全・安心や地域づくりに関連する取組)



根室地域において、慢性的に不足している医療従事者を確保するため、地域医療を担う医療系学生などに地域の魅力を発信するとともに、関係機関の連携により、地域の受入体制の構築などに取り組んでいます。

医療系教育機関等への訪問、ホームページ、雑誌への管内公立医療機関の紹介記事の掲載などを通じ、根室地域での居住、就業に少しでも関心を持っていただけるよう、情報発信を行いました。

■「輝ける北の大地で羽ばたく根釧酪農チャレンジング事業」(地域経済に関連する取組)



根釧地域は我が国最大の酪農地帯であり、地域の事業者は、地域で生産した生乳を使用したチーズやスイーツなど、乳製品の6次産業化を進めています。

根釧産乳製品の高付加価値化と海外への販路拡大推進のため、大都市圏での乳製品PRや国際展示商談会「FOODEX JAPAN 2019」への出展支援等を行い、根釧の魅力を発信することができました。今後も乳製品等の販路拡大に向けた取組を実施していきます。

■「根室水産物ブランド化推進事業」(地域経済に関連する取組)



ロシア水域におけるさけ・ます流し網漁業が禁止されたことにより、代替漁業で漁獲されるサバ類・マイワシや、加工原料をサケ・マスから国産原料へ転換したことに伴う新商品などのPRを行い、根室地域水産物のブランド化に取り組んでいます。

根室産マイワシのブランド名を「根室七星」に決定し、首都圏の量販店と札幌の量販店で「根室七星」の鮮魚販売を行うとともに、根室産マイワシの特徴や調理法を紹介するリーフレットを配布しました。また、振興局で「根室七星」の商標権を取得しました。

根室振興局

■「ねむろ食の商品力強化事業」(地域経済に関連する取組)



根室地域で生産される商品の付加価値を向上させるために、専門家の知見を活用し、根室地域の食のブランド力を高め、販路拡大を図っています。

消費者向けイベントや商談会などの支援を行ったほか、マーケティングの専門家を招聘し、販売戦略のセミナーや個別相談会を実施しました。また、北海道どさんこプラザで、根室産品をPRする「ねむろフェア」を実施するとともに、東京で開催された商談会への出展を支援しました。

■「ねむろ観光交流推進事業」(地域経済に関連する取組)



知床世界遺産など地域特性を活かした観光地づくりを推進するため、シーニックバイウェイの登録に向けた取組やフットパス・ロングトレイルの取組を実施しています。

根室管内のフットパスの整備や普及などを目的としたフットパス・ロングトレイル広域化検討会の取組をさらに発展させるため、釧路管内を含む、根室・釧路8町の官民連携により「知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ」を設立しました。

また、シーニックバイウェイ候補ルート登録を目指し、関係団体と連携しながら、ルート運営活動計画骨子を作成したほか、JR 花咲線・旧国鉄標津線をたどるフットパスツアーを開催しました。

■「移住交流の促進に向けたねむろの魅力発信事業」(地域経済に関連する取組)



交流人口の拡大による「ねむろ地域の魅力」の向上や新たな地域活力創出のため、移住交流促進の取組を行っています。

移住希望者を管内に呼び込むため、ブログへの投稿やハンドブックの配布を行い、根室地域の魅力を発信したほか、「釧路・根室管内地域おこし協力隊ミーティング」や「移住・定住推進連絡協議会」を開催しました。また、11月には東京でセミナーを開催し、個別相談会等を実施することで、移住希望者へ直接、根室管内の魅力をPRしました。

■「北方領土モノがたり事業」(その他)



北方領土隣接地域として、領土返還に向けた世論の機運醸成を図るため、北方領土問題に「触れる」「学ぶ」「知る」の3本を軸に、根室管内の魅力(自然・歴史・文化・食など)を活かし、観光と連携した北方領土問題の啓発活動を展開しています。

かつて国後島へ渡るための要所であった野付通行屋跡遺跡を訪れる「北方領土遺産ツアー」や、インターネットを活用し北方領土へのメッセージや管内の魅力ある写真の投稿を呼びかける「千島桜満開プロジェクト」に取り組みました。

根室振興局

■「根室地域産エゾシカ肉の有効活用促進事業 ～地域資源としてのエゾシカ「根室ディア」ブランド化に向けた取組～（地域経済に関連する取組）



根室管内で捕獲されるエゾシカの肉を有効活用するために、根室産エゾシカ肉の知名度向上や管内の流通促進、提供店舗の増加等を目的とした協議会を設置しました。

会議において釧路管内有効活用事例の講演を行ったほか、根室市内の小学生の投票によりエゾシカ肉の愛称を「根室ディア」に決定し、愛称の使用には管内の認証加工場で処理されること等の要件を定めるなど、地域を巻き込んで事業の地盤を構築しました。

■「根室地域の防災対策の課題解決事業」（安全・安心や地域づくりに関連する取組）



平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震により、北海道では大規模停電（ブラックアウト）が発生し、各市町において停電時の危機対策を早急に取り組む必要が生じたため、専門家を招いて停電対策セミナーを開催したほか、ハイブリッドカーを非常用電源として活用するデモンストレーションを防災訓練の際に実施するなどし、非常時における電源の確保や燃料の備蓄といった課題の解決に向けた支援を実施しました。

■「災害時医療体制の充実強化事業」（安全・安心や地域づくりに関連する取組）



平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震における各医療機関の対応状況等を踏まえ、災害時に被災した医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的に、平成31年3月に管内の病院、有床診療所を対象としたBCP（事業継続計画）の策定等に関する研修会を開催しました。

■「酪農地域における大規模停電の実態調査事業」（地域経済に関連する取組）



平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震に伴い発生した大規模停電の影響によって、根室地域の酪農では搾乳や冷蔵が困難となり、生乳の損失や乳房炎が多発しました。

振興局では、各地域における電源確保体制づくりに資するため、今回の停電時における酪農家やJA等が取り組んだ緊急的な電源確保などの対応を調査するとともに、現場で発電機の設置・稼働等のシミュレーションを実施し、「酪農地域における大規模停電の実態調査報告書」を取りまとめ、広く周知を行いました。

根室振興局

■「自然と食の魅力あふれるオール根室ブランド強化推進事業」(地域経済に関連する取組)



知床ねむろ地域は、世界自然遺産知床やラムサール条約湿地「野付半島」「風蓮湖・春国岱」など、豊富な自然に恵まれており、この地域の特性や資源を生かした修学旅行、大学ゼミ合宿の誘致やガイドの養成などの取り組みを進めています。

ガイド関係者のレベルアップを目的に野付半島で観光ガイドセミナーを開催したほか、根室海峡沿岸地域のアイヌ世界を体感できるモニターツアーや、松浦武四郎の軌跡を紹介する管内巡回パネル展を開催しました。

